

秋田県在住小児の Cocksackie A—16 中和抗体保有率について

須藤恒久*・杉山一夫*・森田盛大**
坂本昭男**・庄司キク**・原田誠三郎**

I ま え が き

昭和44年から翌45年にかけてHand Foot and Mouth Disease (HFMD) という奇妙な名の発疹症が小児間で全国的に大流行した。この病原ウイルスがCocksackie A—16 (Cox. A16) ウイルスである。我々はこの大流行発生要因について疫学的及び病原学的に種々検討を加えてきたが、得られた成績はその主要因が病原ウイルスの生物学的性状にあるであろうということを示唆した。これらの詳細なデータに関しては既報(須藤, 森田1971³⁾, 須藤1972⁵⁾, 須藤たち1972^{4,6)}, 須藤たち1970^{1,2)}の如くであるが、本報では流行後1〜2年経過した後の秋田県在住小児における本ウイルスに対する中和抗体保有分布状況について報告する。尚、この具体的な疫学的解析は別途報告したい。

II 実験方法

A 被検血清

被検血清は昭和45年から46年にかけて秋田県内在住の健康小児から採取した292検体の血清で、測定時まで−20°Cに保存した。

B 中和抗体測定方法

予研から分与されたCox. A—16標準株をミドリサル腎(GMK)細胞で3代継代したウイルスとGMK細胞で中和試験を行なった以外は前報(須藤たち, 1975)⁵⁾と同じ方法である。

III 成 績

地域別、年令別及び年別のCox. A—16中和抗体保有率を第1表及び第1図に示す。

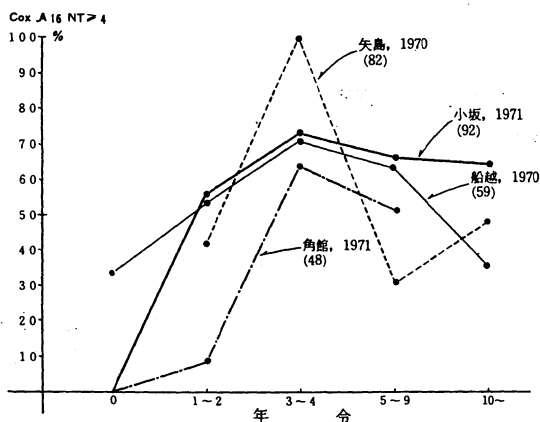
表1 秋田県在住小児の Cocksackie A—16中和抗体保有率

被検血清 採取地区	採 血 年 月	被 検 血清数	年 令 別 中 和 抗 体 保 有 率 (%)					計
			0 才	1—2才	3—4才	5—9才	10—16才	
男 鹿 市	1970	59	33.3	53.8	57.1	62.6	35.7	52.5
船 越	9		(1/3)	(7/13)	(4/7)	(14/22)	(5/14)	(31/59)
由 利 郡	1970	82	0.0	41.7	100.0	30.4	48.7	46.3
矢 島 町	9		(0/0)	(5/12)	(6/6)	(7/23)	(20/41)	(38/82)
鹿 角 郡	1971	103	0.0	54.6	72.7	65.5	64.4	60.2
小 坂 町	9		(0/7)	(9/11)	(8/11)	(19/29)	(29/45)	(62/103)
仙 北 郡	1971	48	0.0	9.2	63.6	52.2	0.0	43.8
角 館 町	9		(0/1)	(2/13)	(7/11)	(12/23)	(0/0)	(21/48)
計		292	9.1	40.8	71.4	53.6	54.0	52.1
			(1/11)	(20/49)	(25/35)	(52/97)	(54/100)	(152/292)

※ (中和抗体保有数/被検数)

第1図

Cox A-16(標準株)に対する中和抗体保有分布・秋田県健康住民(1970~1971)



IV まとめ

H FMD流行1~2年経過した昭和45~46年における秋田県在住のCox. A-16ウイルスに対する中和抗体保有分布調査結果を報告した。

文 献

- 1) 須藤恒久, 森田盛大, 藤原登美子, 坂本昭男: 水疱よりVero細胞でウイルスが分離されたHand Foot and Mouth Disease, 秋田衛研所報, 14, 75-80 (1970)
- 2) 須藤恒久, 森田盛大, 坂本昭男, 原田誠三郎, 昭和44-45年, 秋田県内に於るH FMDの流行状況とCox. A-16に関する疫学的観察, 秋田衛研所報, 15, 97-106 (1971)
- 3) 須藤恒久, 森田盛大. Hand Foot and Mouth Disease, 日本臨床, 29, 52-58 (1971)
- 4) 須藤恒久, 杉山一夫, 森田盛大, 原田誠三郎H FMD流行の要因に関する一考察第13回臨床ウイルス談話会口演, 岡山 (1972)
- 5) 須藤恒久, Hand Foot and Mouth Disease, 小児医学, 5, 44-62 (1972)
- 6) 須藤恒久, 杉山一夫, 森田盛大, 原田誠三郎. H FMD由来Cox. A-16ウイルスに関する研究, 第20回日本ウイルス学会口演, 大阪 (1972)